

彫刻家エル・アナツイのアフリカ展

A Fateful Journey : Africa in the Works of El Anatsui



《壁（グリ）》2009年 アルミニウム、銅線 可変 作家蔵 撮影：Nash Baker ※ライス大学アート・ギャラリー（テキサス）での展示（2010年）

近年、急速に注目を浴びる現代アフリカ美術を代表する、彫刻家エル・アナツイ（1944年生まれ。ガーナ出身、ナイジェリア在住）。金属のボトルキャップを再利用した巨大なタペストリーを思わせる作品は、ヴェネツィア・ビエンナーレ（2007年）で圧倒的な存在感を示し、世界的な評価を得ました。本展は旧作の木彫に加え、新作6点を含む近作の大型インスタレーション作品で構成した日本で初めての大規模な回顧展です。

2011年2月5日（土）～3月27日（日）
神奈川県立近代美術館 葉山

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色 2208-1 Tel:046-875-2800

休館日：月曜日 [ただし3月21日（祝）は開館]、3月22日（火）
開館時間：午前9時30分～午後5時 [入場は午後4時30分まで]

観覧料：一般1100（1000）円 20歳未満と学生950（850）円
65歳以上550円 高校生100円

※（ ）内は20名以上の団体料金

※中学生以下、障害者手帳をお持ちの方は無料です。

主催：神奈川県立近代美術館／国立民族学博物館／
読売新聞社／美術館連絡協議会

後援：外務省

協賛：ライオン／清水建設／大日本印刷

協力：ルフトハンザカーゴ AG

*ファミリー・コミュニケーションの日

毎月第1日曜日（今回は2月6日と3月6日）は、
18歳未満のお子様連れのご家族は、優待料金
（65歳以上の方を除く）でご観覧いただけます。

■お問い合わせ先

神奈川県立近代美術館 葉山

〒240-0111 神奈川県三浦郡葉山町一色 2208-1

tel.046-875-2800 / fax.046-875-2968

広報担当：土居、平井 展覧会担当：水沢、朝木

■プレスリリース及び展覧会情報は、
ホームページでもご覧いただけます。

<http://www.moma.pref.kanagawa.jp>



《壁（グリ）》（部分） 撮影：Nash Baker



《有象無象》1998/2010年 木、アルミニウム、彩色
12点組・62×63×6cm 作家蔵 撮影：福永一夫



《うりふたつの親子》1991年 木
大：134.5×32.5×38.5cm 小：60×31×20cm
作家蔵 撮影：福永一夫



《大地の皮膚》2008年 アルミニウム、銅線 作家蔵 撮影：福永一夫

エル・アナツイは、現代アフリカ美術に対する関心が高まるなかで、最も注目されている彫刻家です。1944年、西アフリカのガーナ（当時、イギリス領ゴールドコースト）で生まれ、ガーナの古都クマシにあるンクルマ科学技術大学で彫刻を学び、木彫の制作を始めます。1975年にナイジェリア大学で教鞭をとるのを機に、同大学のあるンスカへ移り、現在もンスカのアトリエを拠点に旺盛な制作活動を続けています。

アナツイの作風は2000年頃を境に大きく変化します。初期（1970年代～80年代）は、ガーナの伝承や染色布（アジンクラ）、ナイジェリアの伝統的な装飾文様（ウリ）などに影響を受けた木彫や木のパネル、セラミックのオブジェなどを制作し、木を丸ノミやチェーン・ソーで削ったり、炎で焼き焦がしたり、彩色して施した大胆で繊細な表現を特徴としていました。1990年、アフリカの作家としては初めて、ヴェネツィア・ビエンナーレに参加し、選外佳作賞を受賞します。その後、欧米、南米での発表を通して、作風にインスタレーションの意識が生まれ、それは2000年頃から巨大なタペストリーを思わせるメタル・ワークの制作へと展開してゆきます。大量のワインやアルコール飲料の廃材キャップを、ひとつひとつ銅線で繋いで編み上げてつくる巨大なメタルの「タペストリー」は、作家が偶然、ンスカの藪の中でアルコール飲料のボトルがつまったゴミ袋を目にしたことが契機となっています。空間に吊るされ、彩り豊かな眩い光を放つ「メタル・タペストリー」は、廃材であったとは思えないような新たな姿に再生され、見る人を圧倒することでしょう。

アナツイのタペストリーは、しばしばガーナの伝統的な織物（ケンテ）との関連を指摘されたり、ゴミを再利用して生活しているアフリカの現実風景が織り込められているとも言えますが、むしろ、アナツイ自身が好む言葉「versatile」（多芸な、変わりやすいの意）に寄り添うならば、タペストリーには、一つの見方に定まらず、変幻自在に移ろうイメージや意味を内包する魅力があることに気づかされるでしょう。

こうしたタペストリーを連想させる作品は、二度目の招待出品となった2007年のヴェネツィア・ビエンナーレや、2004年から2007年、東京を含む世界6都市を巡回した「アフリカ・リミックス」展などの主要な国際展でもたびたび紹介され、世界的に高い評価を得ています。

また、アナツイの木彫は、日本でも「インサイド・ストーリー 同時代のアフリカ美術展」（1995年）や、「大阪トリエンナーレ」（1995年、1998年）などで紹介されてきましたが、今回は90年代の木彫に加え、新作6点を含む近作を中心として構成された、世界的にも例をみない大規模な回顧展です。



《重力と恩龍》2010年 ボトルキャップ（アルミニウム）、銅線、500×1120cm 作家蔵
※国立民族学博物館（大阪）での展示



《重力と恩龍》（部分） 撮影：福永一夫

「彫刻家エル・アナツイの 아프리카」 展関連プログラム

■アーティスト・トーク

展覧会初日、レセプションの前に、エル・アナツイによるアーティスト・トークを行います。展示室内で質疑応答を交えながら、作品鑑賞を行います。

講 師：エル・アナツイ
聞 き 手：川口幸也／国立民族学博物館准教授
日 時：2011年2月5日（土）午後1時30分～2時30分
会 場：神奈川県立近代美術館 葉山 展示室
*通訳あり
*無料（ただし「彫刻家エル・アナツイの 아프리카」展の観覧券が必要です）

■映画上映 「エル・アナツイのアート：叩く・ぶつける・折り曲げる」

（スーザン・ヴォーゲル監督作品 2010年）

アフリカ美術の研究者であり、映像作家でもあるコロンビア大学教授のスーザン・ヴォーゲルが、2007年以後、アナツイの創作の現場をナイジェリア、ヨーロッパに取材、その秘密に迫る最新作。

日 時：2011年2月26日（土）、3月19日（土） 各日午後2時～3時
会 場：神奈川県立近代美術館 葉山 講堂
定 員：80名（当日先着順）、無料

*映画の予告編を右記のサイトでご覧いただけます。 <http://vimeo.com/16874224>



エル・アナツイ（撮影：福永一夫）

彫刻家。1944年、ガーナ（当時イギリス領ゴールドコースト）に生まれる。1975年、ナイジェリアに移る。2001年、最初のメタル・タペストリー《男の布》、《女の布》（1998-2001年）が大英博物館のアフリカン・ギャラリーに展示される。近年は、ヴェネツィア・ビエンナーレ（2007年）、アフリカ・リミックス展（2004-2007年）に出品。現在もナイジェリアのンスカにあるアトリエを拠点に制作を続けている。

■ミュージアム・コンサート 「OCHI BROTHERS アフリカン・サウンド × エル・アナツイ」 （文化庁支援事業）

出 演：OCHI BROTHERS（越智ブラザース）

越智義朗、越智義久の兄弟によるパーカッションの音楽ユニット。1980年代より世界の各地でフィールドワークを行い、民族楽器、自然素材、美術的オブジェを駆使し、人と地球を結びイメージを音楽で表現させる試みを続けている。三宅一生コレクションの作曲とパフォーマンス（84～90年）で、世界的に注目を集める。

LaMaMa 劇場（Annex / New York）、Jooksan International Arts Festival（韓国）に招待出演。ラジオ、CD-ROMなどの音楽制作、空間のための環境音楽制作、音楽プロデュース、子供から大人まで楽しめる音とリズムのワークショップの展開など、幅広いジャンルで活躍している。CD：「NATURAL SONIC」（90年）、「AQUA」、「NATURAL SONIC 2」（96年）。

日 時：2011年2月11日（金・祝） 午後5時30分開場、6時開演（7時終了予定）
会 場：神奈川県立近代美術館 葉山 「彫刻家エル・アナツイの 아프리카」 展会場
定 員：先着70名（要申込、無料） *コンサートの鑑賞には展覧会の観覧券が必要です。当日ご購入ください。
申込方法：住所、氏名、参加人数、電話番号、FAX番号、メールアドレスをお書きの上、メールまたはFAXでお申込みください。（お申込み後に、申込受付の連絡を差し上げます）
申 込 先：神奈川県立近代美術館「ミュージアム・コンサート」係
FAX番号 046-875-2968
メール public@moma.pref.kanagawa.jp
申込締切：定員に達し次第、申込みを締切ります。

このコンサートは、2月9日と10日に、OCHI BROTHERSを講師として美術館が行う鑑賞と音楽表現のワークショップ「音でつながる、私とアフリカ in 葉山」の関連企画です。コンサートにはワークショップを体験した神奈川県立岩戸養護学校の生徒も一部、参加する予定です。

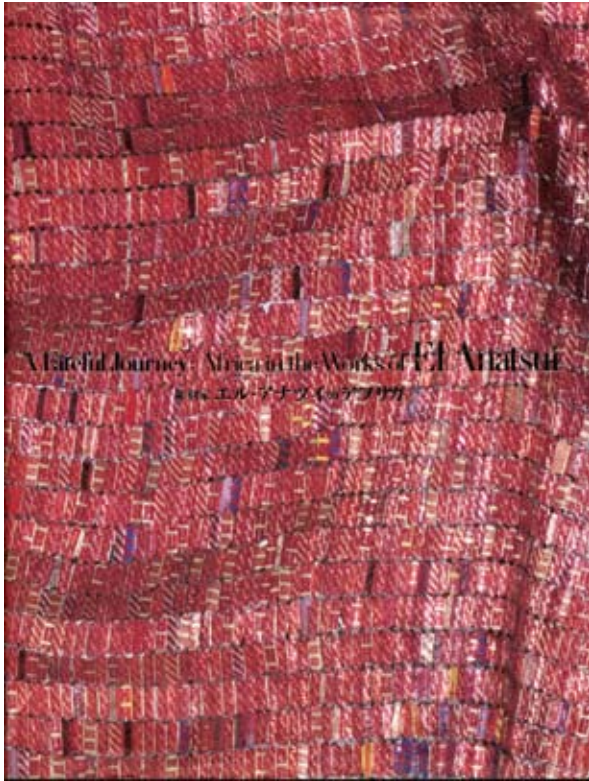
■担当学芸員によるギャラリー・トーク

日 時：2011年2月19日（土）、3月12日（土）、いずれも午後2時から
*申込不要、無料（ただし「彫刻家エル・アナツイの 아프리카」展の観覧券が必要です）

A Fateful Journey: Africa in the Works of El Anatsui

彫刻家 エル・アナツイの 아프리카

本展覧会カタログが、第52回全国カタログ・ポスター展で審査員特別賞を受賞しました。



カバー表紙



扉ページ

第52回 全国カタログ・ポスター展 ～2010～

主催：(社) 日本印刷産業連合会 / (株) 印刷出版研究所

後援：経済産業省 / (独) 国立印刷局 / 日本商工会議所 / (社) 日本マーケティング協会

●審査員特別賞

同賞は、「企画・デザインの面で斬新な技術やアイデアが認められる、あるいは、内容的に時代に即したものであるなど、賞に値すると審査員が判断したものに与えられる賞です。

<審査員> デザイナー：勝井三雄、松永 真、浅葉克己、左合ひとみ
柏木 博 (武蔵野美術大学教授)、他

カタログ目次

エル・アナツイの 아프리카 複数の語り が共存する場への試み
Africa in the Works of El Anatsui: Locating a Site Where Multiple Narratives can Coexist
川口幸也 / Yukiya Kawaguchi

文化のはざまを考える
—エル・アナツイの芸術とグローバリゼーションにおけるアフリカの表象
El Anatsui's Intercultural Aesthetics and the Representation of Africa in Global Culture
シルヴェスター・O・オベチエ / Sylvester Okwunodu Ogbachie

空隙の戴冠—エル・アナツイのいま
Enthroning the Voids: El Anatsui Today
水沢 勉 / Tsutomu Mizusawa

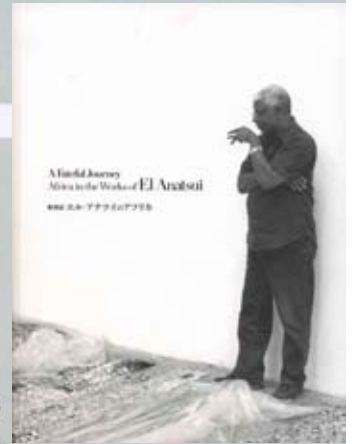
1章 記憶を彫る
Chapter 1 - Sculpting Memories

2章 歴史を紡ぐ
Chapter 2 - Weaving History

3章 創造のプロセス
Chapter 3 - The Creation Process

4章 作品の背景—社会、歴史、文化
Chapter 4 - Background: Society, History, Cultures

ケンテクロスとアジンクラ—アサンテにおける布の意味
Kente Cloth and Adinkra: The Meaning of Asante Textiles
阿久津昌三 / Shozo Akutsu



本体表紙

エル・アナツイと、彼をとりまくいくつかのアートワールド
El Anatsui and his Art Worlds
チャールズ・ゴア / Charles Gore

現代アフリカに生きる—ナイジェリアにおける文化の同時代性
Life in Present-Day Africa: The Contemporaneity of Nigerian Culture
松本尚之 / Hisashi Matsumoto

エル・アナツイ—歴史とアートのはざままで創作すること
El Anatsui: Working between History and Art
竹沢尚一郎 / Shoichiro Takezawa

展示、あるいは表象のポリティクス—アフリカの「うち」と「そと」
The Politics of Re/Presenting: Within and Without
ビシ・シルヴァ / Bisi Silva

アフリカン・コネクション—大英博物館における現代美術の収集
African Connections: Collecting the Contemporary at the British Museum
クリス・スプリング / Chris Spring

略年譜 / Biography

文献 / Bibliography

朝木由香 / Yuka Asaki

出品リスト / List of Exhibits